

◇ 専門部会記録

令和5年度 両沼・耶麻中学校教育研究会 第一次研究協議会 記録

期日：令和5年7月 26日（水曜日） 会場：湯川中学校

部会名	国語	部会	部会長名	耶麻：佐久間 光児 両沼：藤井 義朗
【研究主題】	言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わり合う姿勢を育み、 思いや考えを伝え合う力を育成する指導はどのようなものか。			
【副主題】	思考力・判断力・表現力を育成する指導の工夫			
指導助言者	会津教育事務所 学校教育課指導主事 荒川 真彦 先生			
発表者	全員			
司会者	土門 忠大先生（北塩原一中）			
記録者	小関 英美（山都中）			

No.	参加者名	所属校	No.	参加者名	所属校
1	井上 夏美	喜多方一中	10	村松 和弘	三島中
2	蓮沼 美玲	〃	11	五十嵐 由有	昭和中
3	神田 和幸	喜多方二中	12	藤井 義朗	湯川中
4	鈴木 健太	会北中	13		
5	木村 綾美	塩川中	14		
6	佐久間 光児	山都中	15		
7	小関 英美	〃	16		
8	土門 忠大	北塩原一中	17		
9	大内 美宙	裏磐梯中	18		

1. 開会の言葉 (藤井先生: 湯川中) 9:30

2. 部長あいさつ (佐久間先生: 山都中)

3. 指導助言者紹介 (佐久間先生: 山都中)

会津教育事務所学校教育課指導主事

荒川 真彦 様

4. 協議 1 (司会 土門先生: 北塩原一中)

(1) 研究実践発表 9:45~11:05

5分程度を目安に 10名が研究実践の
発表を行った。

(2) 質疑応答 11:10~11:15

〈司会〉 研究実践発表から、“少人数において、どのように
指導支援すれば言語活動が活発化するか”という
共通の課題があったように思うので、先生方の
実践で何か良いものがあればお願いします。

〈司会〉 自分の学校では、毎週もしくは毎時間メンバーを
変えて、固定化しないことで活発化させています。
(これは、少人数だからこそのこと)

また、話し合いの時に違う物を読んだり、

調べたりした上で行くと、互いに聞かなくて

分からない状態になるので意欲的に発言することがありました。

(2) のつづき

〈神田T:喜中〉 ICTについて、学校によって違うクラウドに
なっていると思うが…

〈司会〉 ICTの研修会で何を導入するかは各自治体に
権限があると聞いたことがあります。

〈司会〉 井上先生の実践について、「ペンギンの防寒着」を
3つ目の教材としてもってきた意図は？

〈井上T:喜中〉 ダイコンは本論の中に問いと答えが交互に出てくるが、
ペンギンは序論に大きな問いがあって本論にそれに対する
答えがいくつ出てくるという違いがあったため、使用した。

(3) の指導 (荒井先生) 11:15~11:45

別紙資料をもとに、研究実践発表にふれたながら
指導助言をいただいた。

- ・ 生徒観… 全国学調、ふくしま学調のデータをエビデンスとして入れてほしい。
- ・ 単元の目標… 学習指導要領の指導事項から示す。
- ・ 評価規準… 指導案が簡略化されて書かない場合でも自分の中に必ず規準をもつ。
- ・ めあて… クエスチョン型の方がまとめがしやすい。めあての工夫を…
- ・ 振り返り… その時間に何を学んだのか、どんな授業身についたのか (まとめはめあてに
対する答え)
- ・ 教材… その一作品だけでいいのか検討する。(比較読み、並行読書)

5. 協議2 11:45~11:55

(1) 中教研県大会に関して ^{代表} 鈴木健太先生 (会北中)

(2) 第二次研究協議会 ^{授業者} 小関 英美 (山都中)

10月25日(水)に開催予定

6. その他

7. 閉会の言葉 (藤井先生:湯川中) 12:00

「令和5年度 中教研国語専門部 第一次研究協議会

喜多方市立会北中学校 鈴木 健太

研究主題 言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を育成する指導はどうすればよいか。

研究副主題 思考力・判断力・表現力を育成する指導の工夫

1 生徒の実態

1年生は、授業に落ち着いて、真面目に取り組む生徒が多い。学習内容を理解しようと努力する姿が見られるが、一部学習定着の遅れがちな生徒がおり、学習支援が必要である。

2年生は、授業に積極的な態度で臨み、課題にもしっかりと取り組む生徒が多い。また、授業内容に興味・関心をもって取り組む生徒が多い。学習内容を理解しようと努力する姿が見られる。しかし、語彙や文法に関する知識が少なく、文章を正確に読み取る能力の弱い生徒が多い。

3年生は、落ち着いた態度で授業に臨み、課題にもしっかりと取り組む生徒が多い。また、授業内容に興味・関心をもって取り組む生徒が多い。

全学年に共通することとして、文章を正確に読み取る「読解力」が不足し、それを言葉や文章で説明することを苦手とする生徒が多く見られる。また、「読解力」の不足に起因して、授業中に与えられる問題や課題に関して、うまく説明できない場面が多い。生徒が教科書の内容をしっかりと理解し、読み取れたものを自分の言葉で表現していけるように、RSの観点などを取り入れながら指導していきたい。

2 研究の視点

- (1) 基礎的・基本的事項の定着を図る。
- (2) 文法や語彙を深めるために、辞書などを使用し学習させる。
- (3) 本文を「読み取る力」をつけ「自分の考え」を深めるために対話的活動・言語活動を工夫する。
- (4) ICT機器を有効に活用した授業展開を行う。

3 研究内容・方法

- (1) 基礎的・基本的事項の定着を図る。

○課題提出の徹底

漢字のノートやワークなどの課題を徹底して行わせることで、家庭学習の定着を図る。毎回チェックをし、不備があれば再提出をさせる等、生徒がしっかりと学習に向かうようにする。また、問題を解く際は、「どうしてこの答えになったのか」「なぜ間違いなのか」ということを考えさせることによって、家庭学習から論理的な思考を持って文章を読むことの定着を図る。

- (2) 文法や語彙を深めるために、辞書などを使用し学習させる。

○辞書を活用し、語彙力を伸ばす。

文章を理解するうえで、語彙をどれだけ正確に知っているかということは非常に重要なことである。そこで文章の新出語句や、生徒のわからない、身近でない単語について辞書で調べたり、解説を加えたりするなどして、文章を正確に読み取ることのできるよう指導していく。また、体言止めや隠喩、擬人法などの既習の技巧などを積極的に取り入れるよう指導した。自分の考えをまとめる際には、文法だけでなく表現技法も非常に重要な役割を占めており、技法を身に付ける機会としても設定していく。

- (3) 本文を「読み取る力」をつけ「自分の考え」を深めるために対話的活動・言語活動を工夫する。

○「自分の考え」を書く

文学的文章、説明的文章、古典の文章、韻文の単元終わりに、読み取った内容（感じたこと）を基に、自分の考えを書く作業を取り入れている。また、その際には文章から必要な情報を読み取り、「理由」や「根拠」を明確にしての記述をするように生徒に指導している。

また、文章に対する発問に対しても、なぜそう思ったのか、どうしてそのような答えになったのか、ということを書いたり、説明させたりする場面を意識的に行ってきた。これらを通して生徒の、本文を「読み取る力」の能力の伸長を図る。

- (4) ICT機器を有効に活用した授業展開を行う。

ICT機器の有効な活用については、日本の教育において急速に必要性が求められている。本校でも生徒それぞれに学校用タブレットが配布され、新しい文房具の一種として積極的に学習に取り入れようという動きが高まっている。本研究における「読解力」の育成や、論理的思考力を伸ばすために、どのように活用することが望ましいか、考えを深めていきたい。

4 実践

(1) 検証授業

令和5年 7月14日(金) 第5校時

単元名 2 新しい視点で 「ちょっと立ち止まって」

学習課題 「やすらかに 美しく 油断していた。」には作者のどんな思いが込められているだろうか

(2) 授業の考察

① 成果

- ICT機器を活用しての調べ学習を実施したことで、生徒たちの興味関心を引くとともに、文章をまとめるうえでの重要な材料とすることができた。
- まとめる例をあらかじめ示すことで、生徒の有用な手助けとなった。特に下位生徒には、書く上で表現をまねて使用し、作文を全員完成させることができていた。
- 表現や構成を学習させたことで、生徒がそれを意識したり、教科書本文を参考にしたりしながら文章を作成していた。多くの生徒が、文章を読む人を意識して書くことができていた。

② 課題

- ▲ 調べたことを「意外だったこと」「驚いたこと」を中心にまとめるように指導したが、前もって持っている知識などに影響され、途中主題から外れてしまう作文が多く見受けられた。生徒たちには、「なんのために行う学習活動なのか」「何をねらいとしているのか」しっかりと理解させる必要がある。
- ▲ 作文を書く上でのきまりや形式など、生徒の理解がまだまだ甘いところがあった。指導を徹底していきたい。特に接続詞の活用などにはまだまだ課題が残る。文法をふまえた指導が必要である。

6 まとめ

(1) 実践の成果

- 生徒達は、学習課題に興味をもって取り組み、自分で調べたことを文章にまとめることができていた。
- ICT機器を活用することで、動画や写真といったデジタル教材を生徒たちに共有させることができた。また、生徒の情報収集など、有用に活用することができた。
- RSを意識した学習を行うことで、単語や、指示語が何を指しているのかなど、生徒が何を理解できていないかについて考え、それを授業に生かすことができた。

(2) 今後の課題

- ▲ 接続する語や単語、品詞、活用などといった読解力に係る基礎的な文法や知識などを生徒たちにしっかりと定着させていく必要がある。特に接続する語は、文章と文章をつなぐ大切な役割を担う言葉であるため、使いこなせるように指導していく必要がある。
- ▲ 生徒たちは、まだまだ語彙の理解が弱い。思考力・判断力・表現力を伸ばす下地となるため、今後も授業中に延ばす場面を意図的に作っていく必要がある。
- ▲ ICT機器の効果的な活用に関しては、まだまだ課題が残る。授業活動や場面に応じた使用方法を今後も模索していく必要がある。
- ▲ 学習課題のねらいや主題をしっかりと理解させ、学習にあたらせることを徹底したい。



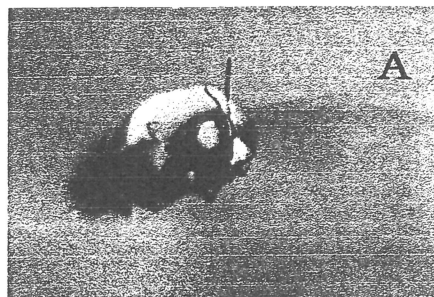
ちよつと立ち止まって 学習プリント①

番 名前

学習課題

「ちよつと立ち止まって、他の見方を試してみる」とは、どのような事だろうか。

1、次にあげる三つ事柄についての印象をまとめよう。



世界から見た日本の領土や人口

A 刺される 怖い 駆除しなきゃ	B 千円札 医者 黄熱病の研究 偉人 すばらしい人	C 小さい(面積) 人口が少ない せまい
--	---	--

ちよつと立ち止まって 学習プリント②

番 名前

学習課題

「他の見方」を試してみても、感じたこと、わかったことはどんなことだろうか。

1、調べてわかったことを作文にまとめてみよう。

作文を書く上での条件

- 1、三段落構成とし、第一段落目には「調べる前に持っていた印象」、第二段落には「調べてみてわかったこと、意外だったこと」、第三段落目には「調べた感想」を書く。
- 2、原稿用紙のルールに従って書く。
- 3、四〇〇字以上で書く。

作文を書く上でのコツ！

1、文の始まりは、「読んでいる人に紹介するように」書く！

例 「みなさんは、野口英世という人物を知っているだろうか。数々の研究結果を残し、黄熱病の研究中に惜しくも命を落とした、福島県が誇る偉人である・・・。」

2、読んでいる人に、「興味を持ってもらえるように」書く！

例 「くまばちは、とても大きいハチだ。大きな音を立てて飛ぶ姿から多くの人々が恐怖心を抱くだろう。だが、本当に恐ろしいハチなのだろうか。」

3、自分の感情（驚きなど）を込めて書く！

例 「私は、日本は世界で見ると小さい国だと思っていた。しかし、調べてみて驚いた。日本の国土は全世界一九〇カ国中六〇位と、大きい国なのである。」

読んだ人が「へえ！」と思うような文章を目指そう！

文体を統一しよう。

「ちよっと立ち止まって」

導入すばらしい!!

みなさんは、日本という国は、面積が小さく人口が少ない国だと思っているのではないでしようか。ちよっと立ち止まって考えてみると日本という国の秘密が分かる気がする。

調べてみると、とてもびっくりすることが書いてあった。世界には、およそ二〇一の国がある。日本の国土面積はおよそ三十八万平方キロメートル。二〇一の国がある中で六

＊位。以外に日本は大きく、びっくりした。

ちなみに一位のロシア連邦の面積は、一七〇〇平方キロメートル。この面積は、日本の面積の四十五倍だ。人口についても調べてみた。

日本の人口は、一億二二三〇万人で世界で十

二位だ。だが二〇二二年に比べて人口が二二

〇万人も減少していることが分かった。人口

一位のインドは人口が増えていて、十四億人

になっている。それに比べて日本は、増える

どころか、どんどん人口が減っている。高齢

左 顧 一 世 子

文 体 〇 管

15 16 17

7

>

9

.....

6

2.

11

11

11

Days since start of study (X)	Days since last rainfall (Y)
0	9.5
1	8.5
2	7.5
3	6.5
4	5.5
5	4.5
6	3.5
7	2.5
8	1.5
9	0.5
10	0

8
7
6
5
4
3
2
1

人 口 増 加 率

持
 子
 論
 に
 国
 の
 分
 自
 ち
 ら
 か
 水
 こ
 の
 の
 国
 い
 り

5
f
6
.
[1
本
日
。
た
こ
あ
人
た
＜
た
4
2
こ
た
た
い

日
本
の
面
積
は
約
三
百
七
十
万
平
方
キ
ロ
メ
ー
トル

。 へ 田 ス

[illegible][illegible]

Y
9
P
>
7
2
'
4
14
f
□
□
,
E
E
現
。
3
、
2

[illegible][illegible]

令和5年度 耶麻・両沼中教研第一次研国語科部会資料

喜多方市立塩川中学校 教諭 木村 綾美

- 【研究主題】 言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を育成する指導はどうすればよいか。
- 【副主題】 思考力、判断力、表現力等を育成する指導の工夫

1 はじめに

令和5年度副主題は、「思考力、判断力、表現力等」を育成する指導の工夫である。これに迫るために、国語2「言葉の力」（光村図書）で指導を行った。学習指導要領に示されている「思考力、判断力、表現力等」の目標は、「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」である。そのなかでも、中学2年生については「論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。」となっている。共感したり想像したりする力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていくためには、どのように指導していけばよいかについて考えた。今回の研究の視点として、国語部会の部報に示されている「ア 言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を身に付けさせるための指導計画・評価計画・評価方法の工夫」を用いて研究を行うこととした。

2 研究実践について

(1) 実施単元 3 言葉と向き合う「言葉の力」（国語2 光村図書）

(2) 学習指導要領に即した単元目標

- 1 本や文章には、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。 [知識及び技能] ((3) エ)
- 2 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] (C (1) オ)
- 3 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

(3) 本単元における言語活動

報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。
(関連：[思考力、判断力、表現力等] C (2) ア)

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①本や文章には、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かそうとしている。 ((3) エ)	①「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 (C (1) オ)	①進んで今までの学習を生かして、考えたことを知識や経験と結びつけて、文章にまとめようとしている。

3 単元計画

	主な学習活動	評価する内容	評価方法
1	・ 単元目標の確認 ・ 本文の範読を聞く ・ 初発の感想を書く	[知識・技能] ①	・ 初発の感想を書いたワークシート
2	・ 新出語句調べ ・ 段落の確認		
3	・ 「桜」の例と「言葉の世界での出来事」の関連性を考える ・ 筆者の言いたかったことは何かを考えながら、自分の考えを記入する	[主体的に学習に取り組む態度] ①	・ ワークシート
4	・ 初発の感想と比較して、考えたことをグループ内で共有する ・ 振り返り	[思考・判断・表現] ①	・ 話し合い活動の様子を観察 ・ 初発の感想の後ろに記入したワークシート

4 実践内容

毎回、単元の1時間目には、生徒に向けて単元目標の確認や単元計画を説明してから学習に入る。単元の見通しを立てさせることで、学習のゴール地点はどこかを意識させる。また、毎回の授業の振り返りを生徒自身が言語化することで「書く」という作業に慣れさせることができる。指導者側も生徒の感想・反省を毎回チェックすることで、生徒の学習の成果と分かりにくかった部分を把握することができる。この振り返りシートを使用することで、指導と評価の一体化も意識できるようにした。(図1)

図1

2 学年の流れ				1 単元の目標				3 振り返り				
②	①	②	①	6	5	4	3	2	1	回	日付	感想・反省
文章を読み、知識や経験と結び付けて考えたことを伝え合う。	本や文章には、さまざまな考え方が書かれていることを知る。					・ まとめ	・ 「言葉の世界での出来事」について考える	・ 新出語句調べ ・ 文章の構成について	・ 単元の目標の確認 ・ 作品を読み、初発の感想を書く		7/8	初発の感想に思いを込めて書いた。でも、まだ、難しい。言葉の世界での出来事について、もう少し考えてみたい。木村
											7/14	言葉の世界での出来事について、もう少し考えてみたい。木村
											7/13	言葉の世界での出来事について、もう少し考えてみたい。木村

単元の2時間目に設定されている新出語句調べでは、ワークシートや教科書準拠のワークなどを参考とし、生徒全員が共通で必ず調べる語句を提示する。その他にも、生徒自身が分からない語句、知りたい事柄は違っていると思うので、本文を読んで自分が分からなかった語句、興味をもった事柄について調べるスペースを設けた。個別最適化学習にも繋がるとともに、主体的に学習に取り組む態度の評価としても用いることができると考えた。

生徒全員が調べる語句については、学校にある紙の辞書を用いて調べ学習を行い、生徒自身が個別で分からなかった言葉や事柄についてはタブレットを用いて調べ学習を行った。(図2)

図2

二年 言葉の力

一組 番名前 ()

1 次の語句の意味を辞書で調べよう。複数の意味がある場合は、本文での使い方に近いものを書こう。

⑥	⑤	④	③	②	①
念頭 (ねんとう)	精髓 (せいいずみ)	淡い (あかい)	ささやかな	本質 (ほんしつ)	語彙 (ごい)
考え(のうちに)。	最も重畳な部分。	① 薄い。② 色や味が濃くない。 ③ 気持ち浅い。④ わずかな、少しの。	規模が小さくて目立たない様子だ。	そのものの特徴となっていて、それ抜きには、その存在が考えられない。大事な性質、要素。	特定の条件の下に用いられる語の総体(も集めたもの)。

2 本文を読んで、分からなかった語句や表現をタブレットを使って調べよう。

。反映↓光などが反射して映ること。
転じて、影響が及んで現れること。

。染織↓布を染めることと織ること。

。気安さ↓遠慮がいらす気楽である。

。上気↓のぼせること。逆上。

。脳裏↓脳の中。頭の中。

。春先↓春の季節に入ったころ。早春。
(2月24日頃)

。時節↓の季節。時候。
(2月24日頃)

。時機↓チャンス。

本単元の1時間目の授業では、本文を読んだ初発の感想を記入するワークシートを準備し、感想を書かせた。初めて本文を読んだ際の感想を言語化させるとともに、生徒たちが本文を読んで分からなかったところや難しいと感じるところはどこなのか、指導者側が把握してから授業を行うことができる。

本単元の最後の授業(4時間目)では、授業を受けて自分なりに理解した筆者の考えを言語化させることで理解を深めさせることを目指した。また、初発の感想と比較できるようにして授業後に理解したことを書かせることによって、本単元で自分の思考がどのように変わったのかを比較することができるようにした。(図3)

感想	() 組	番	名前
1 本文を初めて読んで感じたこと 最初に読んだとき、ピンク色のきれいな着物なんだな。と思って聞いてました。でもその後の内容が難しく、よくわかりませんでした。なぜ体が瞬時に揺らぐような不思議な気持ちになったのか、なぜ言葉の力と桜の木で関係があるのか、たくさんわからないところがありました。でも言葉の三語一語を丁寧に考えたものの、太まな意味加実感されてくるという文がなんとなく筆者が伝えたいことなのかなと思いました。これからの授業でもこの文章について、筆者が伝えたいことを読み取ろうと思います。 2 授業を終えて、考えたこと 初めて読んだときは内容が難しくてわからなかったです。でもこの授業を終えてわかったことは、「人間性は言葉に表れる」ということです。悪い言葉をずいと言っていたら、その人の人間全体を悪くして、反映してしまう。だから良い言葉をたくさん使って人間全体をよくしようと思います。なぜ桜の木と関係しているかというところ、全体を巡っている樹液は見えないが花がら(言葉)で見えるということだと改めて知りました。(全体を巡っている樹液) ↓ 思いや考え			

20 × 20

5 成果と課題

- 本単元の2時間目で習得した「知識及び技能（語句調べ）」を活用し、「思考力、判断力、表現力等（理解した内容を自分の言葉でまとめる）」ことで、各々の領域が分断されことなく学習することができた。
- 最初に単元計画、評価計画を生徒に伝えることで、生徒が単元の見通しを立てて、この単元でのゴールは何かを明確にして学習に取り組むことができた。
- 授業の始めと終わりに理解の度合いを感想という形で本人に言語化させることによって、この単元で何を学んだのかについて本人が理解することができた。
- 授業内でグループ活動を行って、意見の共有を行ったことが効果的であったのかは、いまいち分からなかった。この共有がなくても、本文を読んでいくことで自ずと理解できていったのではないかな。
- 評価計画について、何をどのような評価規準で、どのような評価の観点で評価を行っているのかをもう少し明確に提示した方がよいのではないかと感じた。
- 「読むこと」の領域において、この言語活動の設定は適切であったのかどうか。

6 まとめ

今回は、「ア 言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を身に付けさせるための指導計画・評価計画・評価方法の工夫」という視点で単元を通した学習指導計画を作成し、実践を行った。学習指導要領の改訂を受けて、国語科は5観点から3観点となったが、評価をするときには元々の5観点の意識ももちながら評価を行っていく必要があると感じた。特に「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価は自分のなかで難しいと感じることがあるので、単元計画をしっかりと作成することが大切である。どのようなときにどのような評価を行うのかを自分自身も生徒たちも確認することで、「主体的に学習に取り組む態度」というものが、ただの主観ではなく客観的な評価となっていくのではないかな。また、本単元ではICTの活用が積極的にできていないので、国語科特有の「書く」という活動も大切にしながら、ICTの活用が意見共有などでも行えないかどうか実践を続けていきたい。